

飯能西中だより



# 天覧山 1月号

飯能市立飯能西中学校  
学校だより  
令和3年度 第10号  
令和4年1月11日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

皆様に支えられ 飯能西中学校は今年度50周年を迎えました。

## 新年の始まりにあたって

校長 中村 公一

今年の年末年始は寒波に覆われたため、ここ関東でも晴天に恵まれたものの気温は低く、冷たい北風の中で初詣に出かけた方も多いのではないのでしょうか。一昨年から衰えることのない新型コロナウイルスのために、社会全体が大きな影響を受け続けていますが、今年こそは終息して欲しいと願わずにはいられません。現在の日本での感染状況は欧米のそれと比べるとかなり落ち着いた状態にあるとはいえ、このあと感染が爆発的に増えるようなことが無いとは言いきれません。昨年夏、感染拡大により病床が逼迫したため感染しても入院できず、自宅で亡くなる人があったことを忘れてはいけないと思うのです。今こうして私たちが新しい年を迎えることができるのも、そのような昨年の危機的な状況の中でありながら、多くの医療従事者の方々が不退職の決意で困難と闘ってくださったお陰に他なりません。また、世界中を見渡してみれば満足な治療が受けられないばかりか、ワクチンさえも未だ手に入らず、不安な毎日を送っている人々がいる地域がたくさんあります。このような中、私たちは「今、生きているということ」に感謝しつつ、今まさに助けを必要としている人たちのために何が出来るのかということをよく考え、みんなで支え合っていくことを大切にする1年にしなければならぬと思います。

さて、昨年、プリンストン大学上席研究員である真鍋淑郎氏がノーベル物理学賞を受賞しました。コンピュータで気温の変化を予測する気候モデルを考案し、二酸化炭素の増加が地球温暖化にもたらしている影響について示した彼の研究が高く評価されたものなのですが、これまでにノーベル物理学賞が授与された研究は、新しい技術を開発するのにつながるような理論に基づくものが多かっただけに、真鍋氏が行ったような研究にこの賞が与えられることは大変珍しいことなのだそうです。見方を変えればそれだけ地球温暖化の問題が私たち人類にとって大変重要な問題になっているのだと言えるのではないのでしょうか。ここ数年、世界中で豪雨や干ばつなどによってもたらされる洪水や山火事などの災害が多発していますし、最近アメリカで発生した竜巻災害は季節外れの冬場に起きたものです。真鍋氏も世界中で頻発する異常気象には大変大きな危機感を持っており、気候変動は貧困や難民を発生させる大きな要因になっているばかりか、民主主義や人権をも脅かす脅威となっていると警鐘を鳴らしています。私たちの生活に大きな影響をもたらしているのは自然災害だけではなく、干ばつや水位の変化などで従来のような農業や漁業などが成り立たなくなった地域では多くの難民が発生し、大規模な人の移動が起きています。たくさんの移民や難民が流入している欧米ではこれらを排斥しようとする動きが強まり、人権の問題が深刻さを増しているばかりか、移民や難民を排斥しようとする人たちと、擁護しようとする人たちが対立し、同じ国民の間での分断が浮き彫りになってきています。これらの問題に対し私たち一人ひとりが自分自身でよく考え責任を持って向き合えるかが大切になってきています。

私が中高生のころは学校で出された課題を解決するときには、辞書や百科事典をはじめとし、図書館に行き様々な本を読んでそこから得られた知識をつないで考えるのが基本だったので、根拠を明らかにしながら理論的に考える習慣が自然と身についたものです。しかし今ではインターネットの普及や技術の進歩により生徒たちは手軽に様々な情報を手に入れることが出来ます。レポートなどの課題の答えは考えなくてもいくらでも手に入りますし、方程式の計算などはアプリを使えば途中の計算式まで示してくれますから全く考える必要が無いのです。これは大変憂慮すべきことだと思います。物事の判断をネットに依存している人は、多くの情報を基にして「何が正しいか。なぜ正しいか」を考えて理論的に決めているのではなく、「何を信じるか。なぜ信じるか」という感覚で決めているような気がしてなりません。面倒であっても自分でしっかりと考えるというプロセスを大事にしていきたいものです。

## 始業式の式辞から

みなさんは普通という言葉をごどのように使っているのでしょうか。最近私が気になるのは「普通おいしい」という言い方です。これは言葉の取りようによっては二つの意味が考えられます。「確かにおいしいけれども、特筆すべきものはない」といういわば期待外れのおいしさという場合と、「おいしいかどうか疑わしかったけれども、結構おいしかった」という予想外のおいしさという場合が考えられます。つまり会話の前後の脈絡で違った意味を持つわけです。また、「普通そんなことする？」という言い方をするときには、そのようなことはあり得ないという抗議の意味合いが強いつきですし、「普通の生活がしたい」という言い方をしたときには、もっといい生活がしたいという願望の意味合いが強いつきと言えます。このように普通という言葉は話し手の都合によって様々な使われ方をするのですが、これらに共通しているのは、自分にとって都合のいいことを普通と捉える傾向があるということなのです。例えば「普通でいいよ」という言いかたをしたときのことを考えてみましょう。一般的に私たちが何かを改善するために行動変容を起こすときには、困難や苦痛を伴うものです。「普通でいいよ」という言葉には「無理をせず今の状態を大切にしよう」という慎ましやかな気持ちがあるようにもとれるのですが、新しいことに伴う困難や苦痛を避けたいあまり、挑戦することをためらう言い訳として普通という言葉を使っているのではないかと考えられるのです。

会社、学校など日本の組織の中では、会議において例年とは違う提案をするときには「なぜ変える必要があるのか」という慎重派の意見を説得するのに多大なエネルギーが必要になるのに対して、欧米の組織で例年通りの提案をした場合には「少なからず環境は変わっているはずなのになぜ同じでよいのか」という質問が多く、例年と同じでよいと考えるのは向上心がないからだと評価されてしまいます。コロナ対応の問題をはじめ、社会問題への対応を見ていて思うことなのですが、世界と比べて日本の出遅れ感が否めないのは、こうした理由によるものなのかもしれません。困難を乗り越えていくために、まずは普通というものを疑ってみることが必要なのだと思います。

### 二つのパターンの方がいます

- ・変化を望まない人  
⇒なぜ変えるの？
- ・変化を望む人  
⇒なぜ変えないの？

日本人に多いのは？

校長講話から

### 乗り越えるために

- ・普通を疑ってみること  
自分にとって都合がいいのかもしれない
- ・変化を覚悟すること  
苦勞が嫌なだけかもしれない

校長講話から

### あなたの未来のために

- ・自分の意志で行動する
- ・みんなで知恵を出し合う
- ・心と頭で深く考える

校長講話から

## インフォデミックに対抗しましょう

### 生徒の皆さんへ

インターネットとスマートフォンなどの普及により、皆さんの周りには不確かな情報が氾濫しています。特にここ1、2年の間では、新型コロナウイルスの世界的大流行（パンデミック）の影響もあり、信頼性の高い情報とそうでないものが入り交じり、それらが不安や恐怖とともに大量に拡散され続けています。その広がり方が疫病の流行にも似ていることから「インフォメーション（情報）」と「エピソード（流行）」を組み合わせる出来た造語が「インフォデミック」なのです。最近よく使われるSNSですが、ここには似た人が集まる傾向が強く、その中で都合のいいニュースや噂が出回りやすいという構造上の問題があり、偏った意見が影響力を持ちやすいと指摘されています。これに対抗する手段が「ファクトチェック」です。うわさをそのまま信じるのではなく、信頼できる情報源なのかどうか調べるのと同時に、複数の情報を比較してみるのです。さて、ここでも学力というものが必要になりますね。学力が無ければ感情的になってうわさに振り回されることになるのですから。

## ○ 1月の主な行事予定 ○

1月11日（火）	3学期始業式	24日（月）	避難訓練
12日（水）	給食開始、自転車点検	25日（火）	全校朝会
18日（火）	生徒会朝会	27日（木）	1・2年実力テスト
22日（土）	英語検定実施	29日（土）	漢字検定実施